

第4講 進化する情報技術が与える 影響と情報モラル

教材のダウンロードは以下URLにアクセスし、印刷して受講すると効果的です。

赤字を書き込んでいくとより効果的です！！！！

<https://joho-tarou.com/>



JOHO 太郎「情報 I」スーパー講義

4-1 情報モラルと個人の責任

日ごろから守っている **3つの事**！

法律

- ✓ 全ての国民が守る
- ✓ 個人情報保護法
不正アクセス禁止法

ルール

- ✓ 利用者が守るべき規則
- ✓ XXサイトの利用規約等

マナー

- ✓ 利用者が心地よく利用するために守るもの
 - ✓ 言葉遣い等で他人を不快にさせない。密をさけてマスクを付ける等
- ※法律・ルール化されていないがすべきでないこと

法律・ルール・マナーを含めて守っていく心構えと態度が必要

重要!

情報モラル

情報社会で適正な活動を行うための元になる考え方のこと

4-2-1 情報技術の進歩と役割 - 電子商取引

電子商取引

ECマースと呼ばれる。インターネットを介した商品・サービスの売買

C to C

Consumer to Consumer 消費者同士
→ ネットオークション・フリマ

B to C

Business to Consumer 企業・消費者間の取引
→ ネットショッピング・ネットバンキング

B to B

Business to Business 企業間の取引
→ 企業の事務用品・部品等をインターネット・専用線を通じて取引

POINT



ビジネスの取引形態によって、3種類呼び名がある。意味を理解すること！
世の中の会社をイメージすると判りやすい！

C to C : メルカリ、 B to C : Amazon、 B to B : たのめーる

4-2-2 情報技術の進歩と役割 - RFID・VR・GPS・IoT

最近急速に広がっている情報技術とその意味をおさえよう！

RFID

ICタグを用いて、非接触でデータをやり取りする。
例) お買い物カゴを置くだけでお会計額を表示

VR

バーチャルリアリティの略。仮想現実と訳す。仮想的な空間を現実のように体験
例) VR用ゴーグルに対応したゲーム

AR

Augmented リアリティの略。拡張現実と訳す。現実の中にCGを表示する。
例) ポケモンGO

GPS・GIS

人工衛星からの電波を利用して位置を測定する仕組み→ GPS
地図の中に様々な情報を埋め込んで管理するシステム→ GIS

重要!

ナビゲーション
システム

IoT

物にセンサを付ける等をして、物に関わる情報をインターネットを通じてデータ連携する仕組み (Internet of Things)
例) IoT家電：外出先から室温を確認。エアコンを付ける

4-2-3 情報技術の進歩と役割 - AI

人工知能 (AI)

人間の知能・知性を代替する技術の**総称・概念**

機械学習 (Machine Learning)

データを元に、パターン・ルールを機械自身に見つけさせる仕組み (**人間が関与する**)

深層学習 (Deep Learning)

人間の脳神経回路を模し、大量なデータから**コンピュータが自動的に学習し、認識**

重要! 言葉の意味と、関係性をよく理解しておこう!!!

→ 自動運転技術 (周囲の状況を認知し運転)、医療診断 (レントゲン写真から病気を判定)

→ インターネットショッピングでおすすめ商品が表示。(過去の購入・検索履歴を元にして)

4-3 情報技術が社会に与える悪影響・課題

■ 健康への影響



VDT障害

肩こり、目の疲れ

ネット依存

スマホが無いと落ち着かない

テクノストレス

コンピュータに不応 / 依存する事

■ 情報格差



デジタルデバイド

情報技術を使いこなせる者と使いこなせない者の間に生じる、待遇・貧富・機会の格差

→ 情報化に追いつけない人への配慮が必要。

第4講 確認問題 問1

電子商取引 (Electric Commerce)における B to Cに該当するものはどれですか。

- ① 出勤・退勤管理をWeb上で登録するシステム
- ② Webサイト上で消費者同士が直接オークションを行う
- ③ インターネット上に、複数店舗が集まった仮想的なショッピングモールサイト
- ④ Web-EDIを利用した企業間の受発注取引

→ 正解は③です。

B to Cは、Business to Consumerの略で、企業と個人間で取引するものを選択します。②は「C to C」④は「B to B」を表します。①は電子商取引ではありません。

第4講 確認問題 問2

機械学習の事例として、適切なものはどれですか。

- ① 〒番号を入力した時に、住所の一部を自動で表示できるようになった
- ② 在庫が10個以下になった時に、自動で発注できるようになった
- ③ スマートフォンに自分の顔の特徴を登録し、自分だけがロックを解除できるようになった
- ④ カテゴリ別に大量の商品画像をコンピュータに入力し、コンピュータが自動で新たな商品に対してカテゴリを提案できるようになった

→ 正解は④です。大量の商品画像を学習データとして利用することで、システムが特徴を学習し、完全に過去データと一致しなくとも、特徴を元に判定することができる、という仕組みはまさに画像認識の機械学習の事例です。

①、②、③は固定的な条件を元に判定するものであり、システム自身による学習は必要なく、人によって事前に規則を定義すれば済むものです。

第4講 確認問題 問3

表示しているスマホのカメラ映像の中に、コンピュータが作り出す情報を重ね合わせ表示させる技術は、以下のいずれに該当しますか。

- ① VR
- ② AR
- ③ IoT
- ④ RFID

→ 正解は②です。

AR = 拡張現実と呼ばれます。「拡張」ということで、現実の一部を改変します。

①のVRはバーチャルリアリティの略で、ゴーグルを装着することでCGなどで構築された世界に現実を差し替えるものを示します。

第4講 確認問題 問4

PCやインターネットなどのITを利用する能力、所得や年齢、地域の違いによって、経済的または社会的な格差を生じることを何といいますか。

- ① テクノストレス
- ② VDT障害
- ③ デジタルデバイド
- ④ ネット依存

→ 正解は③です。

デジタルデバイド = Digital Divide (分ける・分割する)という単語のイメージで覚えると覚えやすいです。

第4講が完了しました！

Good job!

チャンネル登録をお願いします！